

厩と馬の世話

高田家の長屋門（長屋形式の門）は、門の内側から向かって右側には仲間（奉公人）部屋が、また左側には「厩」があります。

加賀藩（金沢を中心とする封建時代の石川）では、中級階級の「平士」かそれ以上の階級の侍は、屋敷内に厩を建て、馬を飼うことが許されていました。これらの武士は、公用で街に行く際には馬で出かけていました。特に裕福な武士宅ではたくさんの馬を飼っていたようですが、この高田家では2頭だけだったと考えられます。

高田家に仕える仲間には、馬の世話係の者がいました。彼らは毎日早朝に起床し、馬を引いて屋敷周辺で運動させた後に馬体を手入れし、その間に厩の敷き藁を交換しました。彼らは厩の直ぐ傍で待機し、主人が用事で街中に出かけるという知らせを受けると、直ちに馬に鞍をつけ、手綱を引いて主人の外出を待ちました。また外出中は常に主人に付き添い、主人が目的地まで乗馬で行く際には徒歩で供をしました。